interview

Phone.com, Inc 執行副社長
WAPフォーラム 理事・議長

Chuck Parrish

チャック・パリッシュ

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

携帯電話にブラウザーを組み込むという発明によって我が社はインターネットに大きく貢献した。

99年4月、DDI系のセルラー8社とIDOは携帯電話によるインターネットサービス「WAP」に対応した。NTTドコモのiモードとともに、次世代インターネット端末としてマーケットはしだいに広がりつつある。同時に、携帯端末用のマイクロブラウザーやWAP対応サーバーという新しい分野で活躍が期待されそうな企業が登場した。日立製のWAP端末に組み込まれているブラウザー「UP.Browser」を作ったPhone.com(元アンワイヤード・プラネット)だ。WAPフォーラムの議長も務める同社執行副社長チャック・パリッシュ氏にWAPとワイヤレスインターネットの未来を聞いた。

聞き手:インターネットマガジン編集部
Photo: Nakamura Tohru

🎙:Phone.comがWAPを生み出した経緯について教えてください。

パリッシュ: 4年前に会社を設立した当初から目的ははっきりしていました。私がいま持っている日立の端末のように、携帯電話にインターネットの標準機能を盛り込むことです。携帯電話のようなワイヤレス端末とインターネットはどちらも急速に発展している世界です。この2つの大きなトレンドを統合するために、端末に小型のブラウザーを組み込み、キャリアー側にはコンテンツ配信に必要な技術を提供しようと考えました。個々の規格は独自なものとしてスタートしましたが、現在では世界的なスタンダード「WAP」となりました。

WAPの標準化を考え始めたのは、この市場の広がりが非常に大きいと予想したからです。2年前にノキア、エリクソン、モトローラとともに作ったWAPフォーラムで仕様をオープンにして公開しました。その目的は、どんな端末でも、どんなプロトコルでも、世界中のあらゆるキャリアーから同じコンテンツにアクセスできるようにすることです。現在、世界中にはPDC、TDMA、CDMA、GSMなど、さまざまな方式が存在します。しかし、WAPを採用することで、ユーザーにとって、あるいはコンテンツ提供者にとって、ネットワーク方式の違いは関係なくなるのです。

現在、WAPフォーラムには、コンテンツメーカー、キャリアー、オペレーター、端末メーカー、インフラメーカーなど、120社以上が参加しています。すべての企業がインターネットをポケットに、インターネットを手のひらにという統一されたビジョンを持っています。このコンソーシアムのすべての企業が協力し合って1つの大きな目標に向かっているわけです。

普通の電話にインターネットブラウザーを組み込むというアイデアを発明したことによって、我々はこの業界において大きな役割を果たしていると思います。現在、我々のサーバーをネットワークにインストールしているキャリアーは20社以上、端末メーカーで我々のソフトウェアをライセンスしているところは24社以上あります。これは世界中の端末メーカーのほとんどすべてに当たります。日本でも、DDIやIDOのネットワークに我々の「UPリンクサーバー」が導入され、両社の携帯端末に我々の「UPブラウザー」が組み込まれています。

🎙:インターネットのプラットフォームに携帯端末が加わることで、インターネットはさらに大きく普及すると思いますか。

パリッシュ: そのとおりです。ワイヤレスネットワークとインターネットは、ともに非常に大きく、急速に、また同じくらいの速さで発展しています。ユーザーはデスクトップPCを使って家庭からアクセスできるサイバーワールドの一部を、携帯電話の形で持ち歩けるようになるのです。

いまや携帯電話の普及率はPCの約3倍と言われています。この割合は3、4年後も変わらないと予想されます。そして、各キャリアーはすべての携帯端末にブラウザーを組み込む方向に動いています。ユーザーにとってはブラウザーが入っているからといって、端末が重くなるわけでもなく、コストがかさむわけでもなければ、よけいにバッテリーを使うわけでもありません。その代わりに、電話のボタンをクリックするだけでインターネットにアクセスできるようになるのです。ISPに問い合わせをして、ソフトウェアを買って、PCにインストールしてといったことはまったく必要なく、電話さえ持っていれば事足りるのです。

🎙:PCでアクセスするインターネットと携帯端末でアクセスするインターネットとはなにが違うのでしょうか。

パリッシュ: 携帯端末用のブラウザーにはさまざまな情報から自分に必要なものを

インターネットマガジン/株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

「抽出」できるという新しいメリットがあります。今までのような、あちらこちらに点在した情報を「つまんでくる」ブラウザーというよりも、小さなデータクエリーのエンジンのようなものと考えています。必要な情報だけ、それも必要なときだけ抽出する、あるいはポケットの中でポケベルのようにアラームを鳴らして、必要とする情報が到着したことを知らせてくれるといったものになるわけです。

たとえば、オークションに参加しているときにはPCの前に座っていなくても片手で値段の動きを見たり、入札をしたりできます。電子商取引にしても、インターネットバンキングにしても、金利の上げ下げや株価の変動などの情報をいつでもどこでも入手できるわけです。自分から情報を取りに行くにしても、向こうから情報がやってくるにしても、それらをすべてこの小さな端末で実現できます。

もちろん、これまでどおり、デスクトップPCなどはインターネットを十分に活用するために使われると思います。これに対して、携帯端末ではPCを使って得られるものとまったく同じ情報を、違う観点で、違う見方で、より利便性も高く活用できるようになります。

🎙：WAPを企業内のコラボレーションに使うケースが増えていますが、この分野の可能性についてどうお考えですか。

パリッシュ：企業内の利用に関してもっともわかりやすい例が「グループカレンダー」です。現在でもすでに、ドキュメントへのアクセスはできます。たとえば、部品のパーツナンバーを入れることによって、その価格や在庫情報などを得られます。これに加えて、今後は携帯電話に組み込まれたブラウザー上でさまざまなアプリケーションを使えるようになります。PCのようなフルカラーのスクリーンではありませんが、インターネットと同様にイントラネットでも十分に活用できます。

そもそも、このようなサービスは2年半前に米国でAT&Tが始めたのが最初です。当時はビジネス用のアプリケーションを使うイントラネットのためのものでした。端末もそれほど小さくなく、一般消費者向けではありませんでした。それが、最近になって一般のコンシューマー向けに改良されたわけです。一般の消費者市場に進出することによって、マーケットはマスになります。この大きな市場を見てビジネスマンはこれが仕事に使えることに気づきます。すると、再びビジネスマンの間でこれをイントラネットに使いたいという要望が出てくるのです。この手のものは、どちらかというと裏口から入ってきます。PCにしても家庭で使っていたものが、「じゃあ、ビジネス用にも使ってみよう」ということになったのです。同じように、携帯端末の世界もコンシューマー市場ができれば、そこからビジネス利用に範囲が広がっていくのです。

また、イントラネットだけでなく、エクストラネット用に使うことも考えられます。キャリアーから加入者に対して音声のサービスをよりよくするために電話とインターネットを統合するといったサービスの提供の仕方もあります。

🎙：ビジネス利用においては、認証やセキュリティーなどの技術が重要になると思いますが、それらの実装は進んでいますか。

パリッシュ：認証やプライバシー保護に関する機能はWAPの構造の中にすでに組み込まれています。インターネットと同じセキュリティーモデルが使われています。少なくともPCで得られるのと同じようなレベルの基本的なセキュリティー構造がなくてはなりません。インターネットでこの分野の技術が進化していくのと同じように、WAPでも進化していくのです。

🎙：WAPフォーラムの現在の課題はなんですか。

パリッシュ：99年は商用化の年です。さまざまな新しいサービスが導入されてくる場合には、いつでも相互運用性が重要になってきます。各メーカーがいろいろな商品を作っていますが、それらを世界的に相互運用性を持った1つのワイヤレスネットワークで使えるようにするためには、個々のメーカーが協力し合う必要があります。世界的なスタンダードを作り、「WAP対応」と書かれてさえいれば、どんなブラウザーからでも、いかなるサーバーとでもやりとりができるようにするというのが、現在のWAPフォーラムの課題です。

先日、マイクロソフトがWAPフォーラムに参加するという発表がありました。マイクロソフトは以前から独自の「マイクロブラウザー」を作る方針を打ち出していましたが、WAPフォーラムへの参加によって互換性が保たれることになりました。こうして、ヒューレッド・パッカード、サン・マイクロシステムズ、オラクル、マイクロソフトなど、コンピュータ業界の大物がテレコム業界と協力することになったのです。

このことは、過去6か月の間の大きな問題でした。もしかしたら、マイクロブラウザーの世界でもブラウザー戦争が起こるのではないかと言われていました。マイクロソフトの参加は非常に大きな進歩です。94年から95年にワイヤードのインターネットで起こった「このブラウザーでしかこのウ

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

ェブサイトは見られない」といったことをワイヤレスの世界では繰り返さないことが最大の課題なのです。

🎙：次のバージョンのWAPにはどのような機能が盛り込まれるのですか。

パリッシュ：WAP 1.1は6月に承認されたばかりです。これから登場する新しい製品はすべてWAP 1.1を実装することになります。1.1は以前のバージョンである1.0に存在していた曖昧な点をクリアーにしたという意味で「クリーンアップ」と呼ばれています。約1年前に1.0が登場し、各メーカーがこれをベースに商品を作っていく中でいろいろと曖昧なところが出てきました。そこで、より相互運用性を高めるために1.1にバージョンアップしました。

今後はムーアの法則に従って、デバイスのCPUが高性能になり、メモリーの容量が増え、ワイヤードのインターネットはますます広帯域になります。次のバージョンのWAPでは、高速化したワイヤードのインターネットとワイヤレスのネットワークをさらに高度に融合できるようになります。

また次世代のHTMLとしてW3Cから「XHTML」のドラフトが出されました。WAP 1.1はすでにXMLに対応しています。次のバージョンでは、XHTMLに対応することで、HTMLで書かれたコンテンツにもXMLで書かれたコンテンツにも区別なくアクセスできるようになります。そのためにも今後1、2年は、ECMAやIETF、W3Cなどの機関や団体と協力して、スクリプトなどさまざまな分野で標準化を進めるプロジェクトを運営していく必要があります。

加えて、携帯端末はさらに小型化へ向かうでしょう。トランプのようなカード型の端末も登場するかもしれません。そのようなデバイス用のインプリメントも今後のWAPに盛り込まれることになるでしょう。

🎙：NTTドコモのiモードと比較した場合のWAPのメリットはなんでしょうか。

パリッシュ：この質問に答える前に、背景について少し話させてください。iモードのようなサービスと我々の技術とは異なる点がいくつかあります。我々はウェブを作成するのにHDMLを使います。ノキアはTTMLという言語を使います。エリクソンも別の方式を模索しています。WAPの立場としてこれらを非難するつもりはありません。我々がそれぞれ異なる技術の開発に努力することは好ましいことです。実際に、今日ではWAP以外にもすばらしいサービスがいくつか登場しています。

と同時に、あらゆるものが「標準」の一語に向かって動き始めているのも事実です。この意味で、WAPの大きなアドバンテージは相互接続性とオープンスタンダードを目指していることです。もし、インターネット自体が複数存在して、それらに互換性がなかったとしたら、インターネットの持つ潜在的な能力を引き出すことは不可能です。1つの整合性と互換性を持つインターネットだからこそ、あらゆる人がアプリケーションを作ったりコンテンツを配信したりできるのです。我々はこれを携帯電話の世界でも実現したいのです。

しかし、これらの問題は使う側のユーザーにとってはたいした違いには見えないように思います。この記事を読まれている方々の多くも、自分が見ているコンテンツがHDMLで書かれているのか、それともWMLなのか、コンパクトHTMLかなどは気にしていないはずです。それよりも、コンテンツの質や、携帯端末の質、ネットワークの質、サービスの質を気にしているのです。つまり、IDOもDDIもNTTも、「どんな技術を使ってサービスを提供するか」の違いではなく、質の高いコンテンツを提供したり、音声通話の品質を高めたりすることで多くのシェアを獲得できるわけです。

この3か月の間、先に挙げた日本を代表する3社はともに大きな成功を収めました。すでに、日本はこの分野において世界でもっとも大きなマーケットになりつつあります。我々は自分たちのプロダクトをさらに進化させ、より多くのユーザーに提供したいと考えています。もちろん、他社も同様の努力をするでしょう。勝敗を決めるのはほかでもない「マーケット」なのです。

🎙：ありがとうございました。

チャック・パリッシュ：Phone.com,Inc執行副社長、WAPフォーラム議長・理事
電話通信装置メーカーのAmeriCom Corporation、電話通信会社のContel Cellularを経て、91年から94年までGTE Mobile Communicationsのマーケティング部門担当の副社長を、94年から95年まで同社Mobile Data Divisionの本部長を務める。95年にPhone.comの取締役社長、97年に同社執行副社長に就任。カーター政権時代は、合衆国内務長官の秘書を務める。

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.